
歪な愛と妖精二人

麻雛琥桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歪な愛と妖精二人

【Nコード】

N5396BA

【作者名】

麻雛琥桃

【あらすじ】

愛しの彼のために少女は今日も働こうとしていた。

<それは愛ですか？>

「じゃあ、これ三万円ね」

少しよれている茶封筒を目の前の男に渡す。

「ありがとな葵！ いやーお前は本当にいい女だよ」

愛しの彼は封筒を握りしめて夜の町へ消えていった。

「さて、今日も仕事しなくちゃ」

自分もまた、夜の町へと繰り出す。

愛しの彼のためにたくさんのお金を用意しなくてはならない。

今日も自分に寄ってくるであろう馬鹿な男たちからお金を取る。

それが、私の仕事。

「お嬢さん、お嬢さん」

噂をすればほうら、早くも馬鹿な男が自分に声をかけてきた。

「なんですか？」

作り物の笑顔を顔に浮かべて振り向いた。

固まった。

「どうも、こんばんわ」

「こんばんわ」

自分は啞然としてしまった。

まず、声をかけてきた男は一人ではなく二人だった。

そして、格好がとても奇妙だった。

右側の男は淡いピンクのスーツにシルクハット。どちらもハート

柄のド派手な格好である。

左側の男も右側の男と似たような感じの淡い水色に中央に亀裂が入ったハート柄のスーツとシルクハットを被っていた。

顔立ちがよく似ているのでおそらく双子だろう。

しかし、夜の町を歩いていてここまで奇妙な格好の男に出くわしたことは一度もない。

だから、どう対応するべきか迷った。

考えた拳句。いつも通りに対応した。

「一回、五千円だけど」

「君、こんな商売やめなよ」

水色のスーツの方が私にやんわりと注意してきた。

「はっはあゝん。まさかこんなイケない仕事をしていたとは」
ピンクのスーツはニヤニヤ笑いをしている。

「……あの、やる気がないなら話しかけないでください」

「そーいうわけにはいかんのですよ」

ピンクのスーツはやけに芝居じみた口調で話す。

「あのね、僕たちは妖精なんですよ」

はい？ 仰っている意味がまったくわかりませんが。

「ふふふ。俺たちはね。君をずっと探していたのでありますよ！」
逃げた方がいい気がしてきた。

「もう！ アイ兄さんってばもう少し真面目に喋れないの？」

「レン！ 兄さんはいつだって大真面目だ！」

今から自分に説教でもする気なのだろうか。

「あの、迷惑なんで離れてください」

「そーいうわけにやーいかんぜよ！」

腕をがしりと掴まれた。

「あのね、君、何か間違ってるよ」

間違っている？ 私が？

「君のやってる行為が彼氏をますます駄目男にしてるわけよ」

急に真面目くさった口調でアイとかいう男とレンとかいう男は私に語りかけてきた。

「……あんたたちに何が分かるのよ」

苛立ちを隠さずに男たちにぶつける。

「そんなことして、後で後悔するのは君だ」

「今の彼氏と別れる……とは言わないがもう少し考えた方がいい
と思うぜ」

なんでそんなお節介なことを見ず知らずの変な男たちに言われな

ければならないのか。

「……もう離してよ」

あっさり私の腕は解放された。

「……愛の形を決めるのはあなたと彼氏さんだ」

私が振り向いた時にはもう、あの二人はいなかった。

急に寂しさのようなものが込み上げた。

なぜかは自分でも分からない。

「お姉ちゃん、可愛いねえ」

四十代くらいの冴えない風貌のサラリーマンのような男に声をかけられる。

自分の中に生じた疑問を心の中に閉じ込めて。

今日も自分の仕事をこなしに、声をかけてきた男と共に夜の町の中に入ってしまった。

私が望んだ恋は、愛は、こんなにも歪んだものなのか

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5396ba/>

歪な愛と妖精二人

2012年1月14日21時50分発行